

### ADVANレーシングタイヤインフォメーション

#### 2009年 SUPERGTシリーズ第6戦

2009.8.23

#### 第38回 インターナショナル ポッカGTサマースペシャル



横浜ゴム(株)が「ADVAN」ブランドで、挑戦を重ねるカテゴリーのひとつ、SUPER GTシリーズ。2009年も全9戦で争われ、海外のサーキットも舞台とする日本の最高峰、かつ激しいバトルが繰り広げられるレースである。ADVANはGT500クラスに出場する、KONDO RACINGとのパートナーシップを継続。3年目のコンビとなるジョアオ・パオロ・デ・オリベイラと荒聖治が、HIS ADVAN KONDO GT-Rをドライブし、開幕戦を制覇。チャンピオン目指し、スタッフ一丸で全力を尽くす。

シリーズ折り返しの舞台、スポーツランドSUGOには魔物が棲むと言われるが、ADVANとKONDO RACINGにとっては、まさに決勝レースで遭遇した格好となった。ポイントリーダーとして74kgものウェイトハンデを背負ってなお、3番手からスタートし、さらに序盤は2番手を走って過不足のないドライブパフォーマンスを示した。だが、天候の激変に翻弄され、先手を打ったタイヤ交換がことごとく裏目に。そのため、13位でのゴールとなり、ランキングもトップから6ポイント差の3位に退いた。

シリーズ第6戦の舞台は鈴鹿サーキットで、この真夏の祭典は昨年まで1000kmレースとして開催されていたが、昨今の経済状況を鑑みてレース距離は700kmに短縮された。それでも暑く、過酷なレースであることには変わりはないものの、ADVANレーシングは前回のレース後にSUGOで行ったテスト、そして1月にセパンで行ったテストで、厳しい条件下にも耐え得るタイヤを確認済。ドライブはもちろん、ウェットでも問題なく対応できるタイヤを準備している。また、長丁場であることから、久々実施のノックダウン予選はそれほど

重視せず、むしろレースをしっかり走りきれるタイヤであることの実証を優先した上で、決勝ではタイトルを争い合うライバルより上の順位を目指す。

一方、GT300クラスでは、ダイシンアドバンFerrariがポールからスタートを切り、早々と独走態勢に。その状況はドライでもウェットでも変わらなかったが、唯一の誤算が終盤になって雨が弱まったこと。レインタイヤで走り続けたのが裏目に出て、4位にまで順位を落としてしまったのだ。しかし、その一方でスリックタイヤに賭

けたアップルK-one-紫電、JIMGAINER ADVAN F430が追いついて2位、3位でフィニッシュ。また、やはりスリックタイヤ交換



組のウェッズスポーツIS350も5位につけたことで、ランキングのトップに浮上した。一方、M7 MUTIARA MOTORS雨宮SGC7はあと一步で入賞を逃し、逆転を許したとはいえ、その差をわずか2ポイントに留めた。

ランキング3位の紫電もわずか4ポイント差と、ADVANユーザー同士のタイトル争いが白熱する一方で、ウェイトハンデがそれぞれ100kg、96kg、92kgにまで及んだ状況下では、場所によって重さの影響を受ける鈴鹿なので、優勝争いは至難の業だと思われがち。だが、紫電以外の2チームは5月に鈴鹿で行われた合同タイヤテストにも参加し、現状に匹敵する重量も試している。一方、この3チームに優るとも劣らぬ活躍が期待されるのは、ランキング第2集団のエスロードMOLA Z、JIMGAINER F430、そしてリベンジ必至のダイシンFerrari。また、今回は3ピットが義務づけられるが、ドライバー交代は義務づけではないから、2スティント連続走行や3回のピットストップのうち1回はタイヤ無交換など、作戦に幅が持たせられるので、長丁場のレースらしい最後まで予断を許さぬ戦いになりそうだ。



#### 2009年 SUPERGTシリーズ第6戦用ADVANタイヤラインアップ

		GT500	GT300
ドライ用スリック	構造	1種類	1種類
	コンパウンド	3種類 (M, MH, H)	2種類 (MS, M)
	サイズ	Fr330/710R18, Rr330/710R17	280/710R18, 280/680R18, 280/650R18, 250/650R18
ウェット用レイン	構造	1種類	1種類
	コンパウンド	2種類 (M, MH)	2種類 (S, M)
	サイズ	Fr330/710R18, Rr330/710R17	280/710R18, 280/680R18, 280/650R18, 250/650R18



## GT300 盛り上げ隊

### GT500からGT300へ。移ってきて、何を、どう感じましたか？

今年からRACING PROJECT BANDOHIに片岡龍也選手、MOLAに柳田真孝選手、そしてJIM GAINERに平中克幸選手が加わったのはご存知のとおり。いずれも有力チームで、しかもドライバー3人に共通するのは、昨年までGT500クラスを戦っていたということ。パートナーもそれぞれGT500クラスの経験を持っていて、各チームに大幅な戦力強化が。そこで新加入の3人に、改めて抱いたGT300クラスの印象など、ざっくばらんに聞いてみました。



#### ■GT300のクルマに乗って、率直な印象を。

**片岡**「思っていた以上にハイレベル。IS350はリストラクターが小さいからストレートこそ速くないんですが、プレーキングにしてもコーナリングスピードにしても、乗っている感じは500(車両)と遜色ないですよ。最も、空力が効いているコーナーは500の方が速いんですけど、それ以外のコーナーではそんなに変わらなかった」

**平中**「フェラーリもすごく乗りやすいですよ。速度はそんなに出ていないけれど、プレーキングがすごくいける。05年に乗っている時は格闘しているイメージでしたが、今はずいぶん変わりましたね」

**柳田**「前も今も乗っているのはフェアレディZなんですけど、違う乗り物になっていてビックリしました。ダウンフォースがついているし、足まわりのジオメトリも変わっていたので、前に乗っていた時は「直線番長」的な感じだったんですが、今はコーナリングが良くなっていたので、その変貌ぶりにはかなり驚きました」

#### ■離れてみると、GT500クラスってどんな感じですか？

**片岡**「バッシングがうざい(笑)。僕はあんまりやらなかったんですが、当時。危険な人に遠くから、そろそろ追いつくよ、みたいな感じでだけやっていただけなんですけど、連射はイラッとします。なんかホンダのクルマに多いような……。平中、去年ホンダのクルマに乗っていたよね、連射スイッチってついているの？」

**平中**「……(苦笑)」

**柳田**「言えないところを見ると、ついているんだね。まあ、でもドライバーの識別灯は、後ろにもついたり、もっと分かりやすくしてほしいですね。AかBかドライバーによって、全然違ってくるから、こっちも身構えなきゃいけないんで」

#### ■GT300クラスに移って、プレッシャーから解放されました？

**片岡**「確かにね、500に比べればプレッシャーは減ります。特に今のチームが、いわゆる週末を楽しんでいる、という感じ。企業単位ではなく、チーム単位で、一致団結とか一心同体の部分は出やすいように思いますね」

**柳田**「僕の場合、プレッシャーはプレッシャーであります。純粋にレースしているのは、どのクラスでも変わらないし、300でもチャンピオン争いしているトップチームは、500のメーカー同士の戦いと同じくらい真剣にやっているし、面白いですよ。その意味では何ら変わりはないと思います」

#### ■いつかGT500に戻るんだ、という気持ちは実際のところありますか？

**柳田**「そりゃもう、チャンスがあれば」

**片岡**「僕ら何でも、スピードの出る、速いクルマに乗りたいんですよ。速いクルマは乗っていて面白いですからね、正直言って300ってストレートがつまらない。それは誰でも思っているはずですよ」

**平中**「同じクラスなのに、ポルシェを全開でも抜けられない……」

**柳田**「S耐のBMWの方がストレートは速いんです。ストレートはもっと速く走りたいですよ。あと音ももう少し大きくてもいいような……。耳を塞ぐぐらいの音とスピードが欲しいですよ。見る人に感動と興奮を与えるような感じのね」

#### ■現在のパートナーに対する印象は。特に学ぶことは？

**片岡**「学ぶことは反面教師で、真逆なんです。ラップタイムは同じですけど、そこに対する何かは真逆なんです。織戸(学)さんはステアリング握っている間、テンション高いんですけど、僕はどちらかという冷静。無線でも普段は「了解です」、「OK」、「大丈夫」とか、その程度しか言わないんですが、織戸さんはむしろ走行中に「〇〇が遅くてよ〜、ペースが上がらないよ!」みたいに、何かあるたびに無線で連絡していますね」

**平中**「その点、(田中)哲也さんは紳士的ですよ。チームを引っ張っているという感じの人。経験が豊富だからセットアップを哲也さんがやって、僕が確認するというやり方なんですけど、鈴鹿からは予選をやらせてもらえるんで、そうやって信頼してくれるのが、嬉しいですね」

**柳田**「うちの星野(一樹)選手ですけど、激G見てもらえば分かるのとおり、アツイですね。あと、ふたり揃って飛び出すことが多くて、ヨコハマさんにはフラットブラザーズって呼ばれています(笑)。こないだのSUGOも一発目は僕。セットアップは分担制ですけど、基本は去年チャンピオン獲っているし、クルマも知っているということで、一樹さんがやっています。でも、SUGOではセットもスタートも僕がやりましたよ」

#### ■シリーズも終盤戦に突入。ここまでベストレースは？

**片岡**「勝った岡山の開幕戦と、セパンの2位かな。セパンは紫電には勝てないと思っていましたから。逆に言うと、開幕戦は何となく雰囲気と勢いで勝ちちゃったみたいなもの。その後の2戦がちよっと不調で、いろいろ考えてきた上で、想像できるシミュレーションとして、ベストな成績をセパンでは残せましたからね」

**柳田**「予選だけ言えば、ポールだったセパンなんですけど、レースではまだちゃんとした結果を出していないんでね……。まだまだですね、まだ噛み合っていない。でも、SUGOでいい方向を見つけたらので、これから僕らのベストレースが出てくるんじゃないかと思えます。鈴鹿は勝たなきゃいけないレースのひとつだとも思っていますね」

**平中**「富士、セパンは今ひとつで、特にセパンでぶつけれられたりもしているんですけど、その悪い流れをSUGOで断ち切れたっていうのは大きいですよ。表彰台にも立たない、個人的にも面白いレースでした。開幕戦のポールからSUGOの表彰台まで速かったんですけど、デビューしたばかりのクルマだし、それは仕方ないと思います。でもデータが増えてきた今、ここからがむしろ楽しみだし、僕らもベストレースはこれから、って感じがあります」



**平中 克幸**

/JIMGAINER ADVAN F430

ひらなか かつゆき ©GTA  
1981年10月4日生まれ、北海道出身。95年カートレースデビュー、FP4クラスシリーズチャンピオンとなる。00年ニッサン・ザウルスJr.レースのデビュー戦で優勝し、02年全日本F3、03年よりF3ユーロシリーズ参戦を経て、SUPER GTには06年より出場。GT500クラスで2シーズンを戦い、今年度よりGT300クラスでJIMGAINER ADVAN F430をドライブする。



**片岡 龍也**

/ウェッズスポーツIS350

かたおか たつや ©GTA  
1979年5月1日生まれ、愛知県出身。92年カートレースデビュー、99、00年とFSAクラスでチャンピオンとなる。02年より全日本F3に参戦、03年SUPER GT300クラスにスポット参戦ながら6、7戦を2連勝で飾る。04年よりフォーミュラ・ニッポン、GT500クラスではルーキーで参戦し、シーズン序盤で表彰台に上がるなど才能を発揮。今年度よりGT300クラスでウェッズスポーツIS350をドライブする。



**柳田 真孝**

/エスロード MOLA Z

やなぎだ まさたか ©GTA  
1979年6月4日生まれ、東京都出身。93年カートレースデビュー、96年全日本参戦。97年にスカラシップを獲得し、2年間渡仏。SUPER GTには01年より出場、03年にはGT300クラス・シリーズチャンピオン獲得。05年よりGT500クラスで3シーズンを戦い、今年度よりGT300クラスでエスロード MOLA Zをドライブする。かつて「Zの柳田」と呼ばれた父・春人氏の後を継ぎ「二代目Zの柳田」と呼ばれている。